

## 第1回専門職大学基本構想策定委員会の開催結果について

1 日時 令和元年5月29日（水） 9:45～11:45

### 2 委員会出席者

○会長 生源寺眞一（福島大学食農学類長）

○委員

今井敏（(独) 農林漁業信用基金理事長）、嶋村和恵（早稲田大学商学学術院教授）、野堀嘉裕（山形大学名誉教授）、五十嵐一雄（山形県認定農業者協議会会長）、伊藤倫子（米沢牛いとう牧場（株））、早坂和紀（早坂果樹園）、阿部多喜子（金山町森林組合森林施業プランナー）、遠田勝久（(有) 遠田林産代表取締役）、佐藤睦浩（新庄神室産業高等学校校長）今田裕幸（山形県農業協同組合中央会常務理事）、阿部清（(公財) やまがた農業支援センター専務理事）

### 3 会議の概要

事務局から「山形県の明日の農林業を担う高度な人材育成」について資料により説明の上、意見交換を行った。

#### 【主な意見】

##### ○他教育機関との棲み分けについて

- ・今回の検討は、明日の農林業を担う高度な人材育成をねらいとしているものであり、県の姿勢として素晴らしい。一方で、今の山形県の県立農林大学校の水準は、我が国の最先端にあるということもあり、その農林大学校と大学農学部の間位置する専門職大学の「位置取り」が難しい。
- ・農林大学校にはない専門性、一般の大学の農学部にはない実践性を見出せたら、良い専門職大学になるのではないかと思う。
- ・棲み分けと競合を十分リサーチして専門職大学構想を作れば、合理的に作れるのではないかと思う。
- ・山大は農学をする人を、農林大学校は経営よりも農業の労働者を育てているイメージ。その中間が重要になる。農林業で活躍する学生を育てていきたい。
- ・専門職大学を設立するなら、既存の教育機関と明確な違いを打ち出す必要があると思う。
- ・農林大学校は作業員を養成し、経営者的な人を育てるという意味では専門職大学が位置づけられると良いのではないか。
- ・大学の農学部は、農業者を育てておらず、研究を通して課題解決能力を高めるところだと思っている。将来経営者になり得る人を専門職大学では育てて欲しい。
- ・農林大学校、山大農学部、農業高校と専門職大学との棲み分け、専門職大学の独自性の確保をどうするのか。それを整理することが、教育の現場に対する説得力ある提案にもつながる。

### ○今後の農林業人材に求められる能力について

- ・今後、日本の農業経営は規模が大きく、雇用型のものも増えていくと考えられることからすると、栽培や飼育など農業の専門的知識や技術に加えて、農産物の加工、販売、さらには人材採用、労務管理、行政対応など広い意味の経営管理能力が求められるのではないかと。
- ・消費マーケットを見据えた6次産業化のための幅広い知識や、科学的で論理的な視野を持って現場に出る、そういうことがすごく必要である。
- ・今年農林大学校から採用したが、配属先は現場希望であった。今後必要となるのは経営計画を立てられる人材。
- ・農業従事者が減る中で、先進技術を取り入れた農業をしていかないと対応できなくなる。これからは高度な技術、経営力を持った人が育って欲しい。

### ○専門職大学の教育内容について

- ・心の底から携わってみたいと思える勉強の仕方、マーケティングなど、できる限りアイデアを出したい。
- ・自分が就農したきっかけとして実習で魅力的な人に出会えたことが大きいので、多くの生産現場と接点を持てるカリキュラムが重要だと思う。
- ・農業は一体何なのか、根本から、深いところから考えないと農業は続かないのではないかと、そういうことを教えて育てていく学校だと良いのではないかと。
- ・一番大事なのは、農林業人材に求められる水準の高度化・専門化。それをするための専門職大学にしていけば良いのではないかと。
- ・林業機械の免許はすぐ取得できる。なぜこの機械を使う必要があるのか、なぜ危ないのか、この機械を使って何をすべきなのかといったことを専門職大学で学べると良い。
- ・最近横文字が多く、対応が大変で勉強しないと行けない。法律や制度、言葉も変わる。すぐさま対応できる力が必要である。
- ・将来の地域のリーダーになる人材を育てて欲しい。農林業は地域とともに歩む産業である。経営者も大事だが、産地とのつながり、地縁もある、地域とともに歩む、という視点の教育にも期待したい。
- ・キラリと光る農業経営者の大半は語学力（英語）が堪能。「今だけ」を考えず、海外への販売などを見据えたカリキュラムにして欲しい。
- ・人材育成ができる法人の経営者、幹部候補生の養成も専門職大学の役割として必要ではないかと。

### ○リカレント教育について

- ・社会人など多様な人材の受入、社会人向けの教育の充実も必要だと思う。
- ・就農後に学びたいことが増えてくる。大学の役割として、若い人を育てることだけでなく、就農した人にも知識や実践の場ですぐ使える技術を学べる大学になってくれると有り難い。
- ・リカレント教育、もう一度レベルアップするために入学する人への対応も大事。そうした人が入学すると、若手の学生にも刺激になる。

### ○その他農林業を担う高度な人材育成に係る意見

- ・食への関心が高まっている状況を考えると、高齢化などの問題はあるが、若い人が食を通して農林業に興味を持つ可能性は高いと思っている。
- ・人材不足は感じている。忙しい中で従業員にマネジメントを頼めず、自分ですると現場に出られない。
- ・山形の良さを上手にアピールしながら、県外の方にも専門職大学を知ってもらって来て欲しい。
- ・新たな森林管理システムが本年度からスタートしたが、森林の経営管理を担う市町村の林務担当者の育成も専門職大学で行って欲しい。
- ・専門職大学について、県の農業を何とかしないといけないという問題意識を持った学生が集まるのであれば、応援しないといけないと思っている。
- ・今後進む少子化が懸念材料。
- ・少子化を見据えることが不可欠であり、逃げずに正面から考えていく必要がある。
- ・専門職大学の設置については、現在の教育現場の人たちに対して説得力を持たないといけない。
- ・地域のリーダーとなる人材を育成して欲しい。山形県の専門職大学であるからこそ、山形の地で地域に還元し、外に向けて発信し、地域とつながりを持つことが大事。

### ○アンケート調査について

- ・専門職大学は、ドイツのマイスターの大学と似ている。ドイツの場合、マイスターを卒業すると関係した分野以外への就職はほとんどできないが、専門職大学はどこにでも自由に就職できるということを、アンケートに組み込めないか。
- ・高校生に対しては「将来どのようなことを考えていますか」、農林業経営者に対しては「どういう人材が必要なんですか」と、フラットに聞いてみてはいかがか。
- ・アンケート結果がどのように使われるのか、またはアンケート結果を返すと報告して欲しい。

以上